

令和4年度 第1回 名張市社会教育委員会議 (会議録概要)

◇開催日時：令和4年6月30日(木) 14:00～15:30

◇開催場所：名張市役所 2階 庁議室

◇出席委員：斉藤健委員、増岡孝則委員、廣岡茂斉委員、森永美紀子委員、守屋さおり委員、耕野一仁委員、
生田茂夫委員、時枝民生委員、若山東男委員、神野稔委員、豊岡千代子委員、椿原礼子委員

◇欠席委員：須曾野仁志委員、千邑淳子委員

◇事務局：西山教育長、文化生涯学習室松本室長、雪岡社会教育指導員、西山、西岡

◇傍聴席：なし

1、委嘱状交付

社会教育委員14名へ委嘱状交付

2、教育長挨拶

3、委員紹介

4、役員の選任について(委員長・副委員長)

委員からの立候補者はおらず、事務局案を提示する。委員一同の賛同を得て、委員長に斉藤健委員、副委員長に増岡孝則委員が就任することに決定。

5、社会教育委員制度の概要について

6、議事

・提言書のさらなる実現にむけて

社会教育委員より名張市教育委員会に提出された「提言書」について、事務局より概要の説明を行う。また、その内容についての質疑応答が行われた。

※以下質疑応答の内容

○「主体性」という言葉について

「子ども主体で」とか「あらゆる主体」とかその主体というのが分かりにくい。主体性とはなにか。

→「自分で考えて、自分で判断して、自分で最後までやり遂げる力」を主体性という言葉で表現しています。

「あらゆる主体」とは。

→子どもの育ちに関わるあらゆる主体という部分につきましては、保護者、学校の先生、また幼稚園・保育所の先生、地域の方々及び教育関連施設と考えております。

○「自己肯定感」という言葉について

自己肯定感という言葉が出てくるが、臨床心理学分野の言葉で、表現として難しすぎるのではないか。

→「自己肯定感」という言葉は、学校現場において、子どもたちに「自分自身を大切に、望まれて生まれてきたんだよ」と伝えていく際に広く使われている言葉であり、現在の名張市において一般的に使われている用語であると考えています。

○提言書を具現化していくことについて

「提言書」について、会議の中で、社会教育委員自らが次の段階としてアクションプログラムを作り、発信していくよう聞こえたが、これは、いわゆる答申や諮問のような位置づけと考えている。教育委員会に提出した今、次に具体化を行っていくのは教育委員会ではないか。

→当然、教育委員会が進めていく側面もございます。しかし、提言書には、それぞれのお立場でご提起いただいている部分もございます。そういった中には、教育委員会が実働的に行えないものも現実としてございます。そういったところに関しては、社会教育委員の皆さまや、関係団体と相談をしつつ、具体化に向けて進めたいと考えております。もちろん教育委員会の部分として提言いただいたものは、真摯に受けとめ、今後の事業に反映できるように進めてまいります。

・社会教育に関する取り組み状況について

社会教育に関する取り組み状況についての資料を事前に送付し、その内容に対する質問を集約した。質問に対する各室からの回答を説明し、他にも質問がある委員からの問いにお答えした。

※以下質疑応答の内容

○資料全体について

記載時期や記載者など不明な点が多く、また小事業名などが明確でなく分かりにくい。

→取りまとめの仕方や、文章表現などを分かりやすくするように今後改善いたします。また、小事業名は、予算に応じた名称になっているため、分かりにくいものとなっております。この点についても、資料の形式や表現を検討し、誰が見ても分かりやすい資料となるよう作成いたします。

○放課後子ども支援について

放課後児童クラブがすでに各地域で立ち上がり運営されている。今日の社会状況において需要は大きく、すべてにこたえられていない状況でもあります。ますます充実すればよいのではないかと。

→所管する子ども家庭室よりの見解

放課後児童クラブの需要の高まりは認識しており、対応をしていますが。しかし、施設の整備や人材の確保といった部分で課題もあり、要望があってもすぐにはできるという状況になっていないのが現実です。その地域ごとの状況を鑑み、運営を委託している地域づくり組織と相談をしつつ、進めています。

放課後子ども教室はどのような位置づけ、形態を目指しているのか。

→放課後子ども教室は、原則として設置する地域（校区）の小・中学生を対象に、小・中学校や市民センターなど地域の施設を活用して、地域住民の参画のもと、子どもたちが地域社会の中で、心豊かに育まれる環境づくりを推進するものです。

現在は、放課後子ども教室を実施したいという団体様に、活動計画をご提出いただいた上で、委託費用を支給して、運営していただいています。月に1回程度、ワークショップのような形態の活動をするとところが多いのが現状です。例えばスポーツ大会、ハンドクラフト、キャンプ、凧あげなどの事業に取り組んでいます。

今後は、未実施の地域での立ち上げを支援するとともに、すでに実施している地域の委託先様と連携や意見交換を行いつつ、全地域・全校区での立ち上げに向けて取り組みを進めます。

地域福祉活動計画の中にも市民センター等を活用した子どもの居場所づくりが示されており、令和4年にはもう何拠点か立ち上がっている計画となっている。

市の「地域での子育て」「子どもの居場所づくり」としてこの3事業はどのような違いや役割はどのようなものか。今後、名張市ではどのような形で成果がみえてくるのか。

→地域福祉活動計画の中では、令和4年の時点で3拠点の支援を行う計画になっています。この計画を作成した社会福祉協議会に問い合わせを行ったところ、現時点では、つつじが丘地域と薦原地域の2拠点で支援を行っているとのことでした。内容としては、定期的あるいは単発的に子どもを主とした活動を実施し、地域の方と子どもたちが交流する場を作っています。例えばつつじが丘市民センターで行われている「おにぎりクラブ」や「映画観賞会」、薦原市民センターで行われている「寺子屋企画」などがあります。

社会福祉協議会の見解といたしましては、共働きやひとり親家庭の増加など、家庭状況が多様化する中で、子どもの居場所づくりがより重要となり、現在の放課後児童クラブや、放課後子ども教室でカバーしきれていない部分の支援になればと活動しているとのことでした。

放課後児童クラブは、主として、保護者が仕事などで昼間に自宅にいない家庭の小学生を対象に、児童をお預かりするものです。開所の時間は、平日の下校時間から午後6時まで、土曜および長期休暇中の午前9時から午後6時までのところが多く、子どもの宿題・遊び・おやつの時間などを、安全に過ごすための見守りを行って来ています。

このように、平日から土曜日まで長時間子どもを預かる性質を持つのが放課後児童クラブですが、放課後子ども教室、あるいは地域福祉活動計画の中にある居場所づくり事業に関しましては、現時点では、週末や休日を利用した活動が多く、時間的には短いものになっています。

こういった事業の統合化は、国も呼びかけを行っているところでございますが、成り立ちや性格が異なっている部分があり、全国的に広がりを見せていないのが現実でございます。しかしながら、対象となる子どもは共通しておりますので、統合化に向けて協議を進めているところでございます。

統合化に向けた話しが、所管する部署が違うことを理由に進んでいないのではないかと。

→放課後児童クラブ、放課後子ども教室等につきまして、教育委員会の中でも、「子どもの居場所」と考えた場合に、区分けは必要ないのではないかとこの考えを持っております。ただ、所管部署が違うことで協議が進みにくい部分があるのも事実ではございます。もちろん、前向きに協議を進めてはまいりますので、もう少しお時間をいただきたいと思っております。

○文化施設の管理費について

文化施設の管理費が減ってしまっているが、もっと積極的に夏見廃寺のような文化財を広めたほうが良いのではないかと。また、予算が減ったことを理由に、開館時間を短くするなどはないかと。バーチャルで施設を見せるなど、攻めの展開をした方が集客できるのではないかと。

→現実問題として予算が削られているのは事実です。しかし、それを理由に文化財の保存活動を縮小するつもりはございません。例にあげられました、夏見廃寺についても、予算は減っておりますが、ボランティアの方に支援をいただくなどし、予算カット前と同じ開館時間を確保しております。攻めの展開についても、バーチャルで見られるようにする試みも実際に行っており、近大高専にご協力をいただき、ソフトを完成させており

ます。また、藤堂家邸での写生会も近く予定しており、文化財施設を利用した積極的な取り組みを行っていき
たいと考えております。予算がない中でもできることを考え、やれる事業から行っていきます。

○総合型地域スポーツクラブ創設事業について

今後、今年度は予算付けして積極的に進めるのか。

→令和4年6月補正予算において総合型地域スポーツクラブ創設支援事業に関しまして議決されました。この
内容につきましては、あかめ総合スポーツクラブ設立準備委員会に対しまして、年額1,200千円の助成を行う
ものとなります。2年後の令和6年度から、持続可能なクラブ運営を行っていくため、「名張市総合型地域スポ
ーツクラブ育成支援指針」に基づき、スポーツ振興くじ助成を活用して、設立に向けた準備経費を補助し、総
合型地域スポーツクラブの組織化及び定着化を推進するものです。

また、今後、設立に向けた取り組みをすすめられる地域には、積極的に支援を行いたいと考えております。

学校でのクラブ活動の指導、支援は教職員の手から離す方針も報道されているが、関連はあるのか。また、学
校現場の負担や、子どものより良い部活動を考えた場合、急いだほうが良いのではないかと。

→喫緊の課題となっている、本件については、地域における担い手として、総合型地域スポーツクラブが重要
な役割を果たす必要があると考えています。引き続き、名張市内で活動している5つの総合型地域スポーツク
ラブの実情及び地域における実情をそれぞれ把握した上で、地域と総合型地域スポーツクラブの連携する取組
を行っていきたいと考えています。

○ユネスコ協会の活動について

名張には、多くの外国の方が就労などで在住している。ユネスコ協会では、そういった方との国際交流を行っ
ているが、市としても積極的に行ったほうが良いのではないかと。外国の方、名張の市民、双方にとって有益に
なると考える。

→ユネスコ協会については、文化生涯学習室から委託をさせていただいている組織であり、活動等よく知って
おります。また、その内容の有益さも理解していることから、積極的に協力していきたいと考えております。
ユネスコ協会と協議する場を今後作らせていただいて、お話をお聞きできればと思います。

7、その他

・図書館協議会委員の選出について

図書館協議会委員について事務局より説明を行う。これまで務めていた社会教育委員が退任され、新たな委員
の選出が必要であること、事務局から指名で選出することを伝え、承認いただく。

・家庭教育講座について

社会教育委員より、事前に配布した資料に基づき説明があった。提言書を具現化する中で、お互いの分野のこ
とを委員同士が知る必要があると考え、今回、自らの分野である「家庭教育」について説明をされた。

・ニュースポーツ手裏輪について

社会教育委員より説明があった。また、手裏輪研究会の方も同席され、手裏輪がどのようなスポーツで、どう
いった目的で行われているのかをレクチャーいただく。そして、地域活性の一環として、手裏輪を広め、競技人
口を増やしていけるように協力してほしいと伝えられる。

・東海北陸研究大会について

委員長より、東海北陸研究大会について質問があり、事務局が回答する。今回は、名張からの発表者が居ないことから、現地への参加は難しい。Zoom などを利用した参加を検討し、何らかの形で参加できないか考えると回答。